



広報ぬまづ令和7年1月15日号は、恒例の「市長新春対談」をお届けします。

今年の対談は、頼重秀一市長たつての希望で、沼津市出身の俳優・磯村勇斗さんをお迎えしました。沼津に生まれ、沼津で育ち、幼い頃から夢だった俳優として活躍する磯村さんと、沼津を愛してやまない市長が「夢を叶えること」をテーマに熱く語り合いました。

有言実行、

そして次の100年へ



夢の始まりは沼津から

【市長】あけましておめでとうござい
ます。磯村さん、沼津におかれりなさ
い。磯村さんは、沼津のふるさと納
税応援隊長就任や移住定住PR動画出
演、令和5年からは沼津市制100周年
記念燃々ぬまづ大使としていろいろ
な場面で沼津のために活動していただき、感謝しています。

【磯村】こちらこそ、故郷の沼津に貢
献できるチャンスをいただき、嬉しい
です。

【市長】一昨年、沼津市制100周年
記念事業「きらり沼津。磯村勇斗と
新しい100年へ」で磯村さんが演
劇を披露したのが、ここ沼津市民文化
センター大ホールでしたね。100周
年をお祝いするのにふさわしいイベン
トでした。

【磯村】僕は俳優になつて、この市民
文化センターの大ホールに立つのが夢
だったんですよ。僕の原点ともいえる
「沼津演劇研究所」の皆さんともう一度
お芝居をしたくて。市制100周年と
いう絶好のタイミングで、夢が叶いま
した。僕は高校生のときにベテラン演
劇研究所へ飛び込んで、演劇の基礎
を一から教えてもらいました。初舞台
は千本バラザだつたなあ。

【市長】磯村さんは、いつから俳優に
なりたかつたんですか。

【磯村】中学校2年生のときに、友人

たちと短編映画を撮つて、全校生徒の
前で上映したんです。エンドクレジッ
トが流れ、みんなが拍手をしてくれ
た、その光景は今でも脳裏に焼き付
ています。その瞬間に「芸能の世界に
行こう」と決めたんですよ。雷が落
ちたような衝撃で、「この道だ」と導か
れた気がしたんですね。

【市長】それはすごいですね。映画は
どうやって撮つたんですか。

【磯村】父のビデオカメラを借りて、
教えてもらいながら編集も自分でやり
ましたよ。

【市長】お父さんのバックアップがあ
つたんですね。夢の実現には自分自身
の目標設定と努力も大事ですし、周り
のサポートも必要ですよね。

【磯村】応援してくれる大人が側にい
てくれるだけで、子供は成長できるし、
夢に向かつて頑張りますね。僕もい
ご縁に恵まれて、応援し支えてくれる
大人に出会つてきました。

支えてくれた大人がいて

【市長】沼津演劇研究所の皆さんも、
磯村さんを支えてくれた大人ですよね。

【磯村】研究所で過ごした時間がなか
ったら、僕は今のポジションにはいな
いですね。当時若者は僕だけで、時に
は厳しい指導もありましたが、家族み
たいな一体感があつて、皆さん優しか
つたです。

【市長】そうだったんですね。



3 広報ぬまづ2025.1.15号